

須恵町の農業の現状と課題、 および方向性について

令和7年1月31日、須恵町の農業の現状と課題および方向性について、地域振興課の説明を受け、意見交換を行いました。

須恵町の農業の現状

現在、町内の住宅の増加により、多くの農地が減り、今後も大幅減少が見込まれます。平成26年と比較して農地面積が22.9%減、農業者の減少率11.9%となっています。

農地従事者の高齢化、70代から80代が66%となっており後継者の問題など、全国的に農業を取り巻く課題に明るい展望は見いだせないのが現状のようです。



須恵町の農業政策の今後は

今後の課題

農地が減少した場合、農地が有していた機能としての、雨水を一時的に貯留し洪水や土砂崩れを防ぐなどの役目を果たせなくなります。

また、農業者の高齢化や後継者不足が顕著になる中、それぞれの地域で、農業用施設の維持、管理が行われています。このような課題の抜本的な解決策が見いだせていないのが現状です。



開発が進む農地

議会の視点

須恵町において、農業がなくなってしまうようなことはないと思いますが、将来的には宅地化が進むことによって農地がさらに減り、高齢化や後継者がいないことで、農業者が減っていく現状は、

止めようがないように思います。

議会としても、農業の現状および方向性について注視してまいりたいと思います。

3月定例会 諮問の結果

人権擁護委員の推薦

任期満了にともない再任 岡本 省二氏 (大島原区・70歳)



「防災対策、一段と強化」 — 須恵町中部防災センター^{しゅんこう}竣工 —

従来、防災施設が整備されていない須恵川の右岸地域に、防災拠点が必要との地域の要望を踏まえ、平成27年に用地取得。以来、10年の年月を経て昨年6月より工事に入り、本年3月27日、須恵町中部防災センター竣工式が行われました。

2階の防災会議室には、現在アザレアホールに設置している防災行政無線非常用可搬型親局装置を移設し、災害時、もし役場が被災した時は、臨時に災害対策の指揮所となる機能を備えています。また、1階には、指定避難所として活用できるホール(防災教育室)や、防災倉庫、事務室、厨房などを配置しています。ホールの空調は、ガスヒートポンプによる運転で対応し、緊急時に停電が起きることを想定し、応急の発電機能も備えています。

隣接地には、消防須恵分団格納庫が設置され、分団の活動もここで行われます。

平時には、公民館として多くの方々に利用していただくことを望んでいます。

《事業費》	約4億5千万円
《所在地》	須恵町大字須恵171番地1
《施設概要》	

	中部防災センター	消防団格納庫
・建築構造	鉄筋コンクリート造2階建て	木造2階建て
・敷地面積	3312.35㎡	729.22㎡
・建築面積	491.20㎡	56.50㎡
・総床面積	728.52㎡	99.34㎡



避難所として、地域の集いの場所として活用されます！



避難所としても活用される防災教育室



3月27日竣工式が行われました



地域防災の要！須恵町消防団格納庫